

## 8か月間の治療・ドレーン生活をおわって

岡本 明(元文学研究科)

今回、書くことがあるとすれば、今季 4 月からの平和学講座の日取りで大杉座長、それに植村泰夫・植木研介両マスターに大いにお世話になったことです。2 月以来、広島市立市民病院に入院を余儀なくされましたが、4 月初めには退院できたものの、指定日の通院を必要とし、またドレーン(手術後、排液を体外に取り出す管)と液を貯める袋をぶらさげていました。私の場合、切除した部位が臓器の頂点であったため、体液の溜まり易いことから、ドレーンでの完全排出迄に長い期間を要したことのようです。体力的にも 4~5 月は無理で、予定では 4 月冒頭の担当のところ、6 月に先送りし、さらに 6 月になって家族から諫める声があり、では 7 月中・下旬にはなんとかできるだろうと日程をずらし、回数も東雲と東千田 2 回ずつを 1 回ずつに減らすことも含め、頻繁に座長あてメールを打ちました。座長におかれてはそのたびに交代可能なマスターを探すのに骨をおっていただきました。植村・植木両氏には、わたくしが予定した 7 月に、もしやのことがあってはと当日待機までしていただいたこともあります。あらためてお礼申し上げます。

9月に漸くドレーンを抜き、回復宣言をもらいました。まだ一定時間以上歩いたり、座ったりしていると腰のだるさは残りますが、体力は回復して、来春からは以前のペースでできるのでは、と思っています。

マスター諸賢におかれては同じようなドレーンと共存生活を送られた方はおられませんか？ 外科的処置としては割とよく用いられると聞きましたが…。

いずれにしても、せつかく企画されている見学会や懇親会には欠席を重ねている現状ですが、それでもいつか参加できる日のあることを望んでいます。

個別的すぎる話題でもうしわけなく。なお、石丸マスターの問題提起的発言には緊張感をそそられ、うかうかしてはいけないな～の想いです。

次回は、フランス絶対王政と江戸幕藩体制の類比の余地のあることなど、多少は学術的・論争的なことを書いてみたく思っています。 （了）